
転生×ハンター

七色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生×ハンター

【Nコード】

N0845X

【作者名】

七色

【あらすじ】

HUNTER×HUNTERの世界に転生させられた主人公。神からの理不尽な命令を受けるも、強くなることを決意する。主人公と、次々と現れる転生者達がおくるハートフルボッコストーリー。

ブローグ（前書き）

誤字・脱字はご容赦ください。

プロローグ

一体どうなっている。

俺が気づいた時はここにいた。この何もない場所に。

ここはどこだ？

そうやって困惑していると、目の前に突然老人が現れた。

「お主は死んだじゃよ」

老人は唐突にそんなことを俺に伝えた。

「俺が死んだ……？俺が死んだというならここは死後の世界か何か？
？アンタは神様？」

「似たようなものじゃ」

確かに、俺は死んだんだと思うとしっくりくる。なら、これから天国か地獄に行くのだろうか？

「いや、本来はそうじゃが、お主にはやってもらいたいことがある」
思考を読まれたと驚いていると、神はたたみかけてきた。

「お主にはHUNTER×HUNTERの世界に転生してもらいたい。まあ、それに似た平行世界だが」

「そこでお主には3つの命令を遂行してもらう。ああ、お主の他にも大勢転生者はいるが、皆3つずつ命令を受けておる。それぞれと協力するもよし、排斥するもよし」

「後、転生特典は通常よりも遥かに念能力に目覚めやすくなるのみ。他には何も無いぞ」

「ああ、ちなみに拒否権はない。これは神々の実験兼娯楽だからだ。本来ならば原作通りに進む世界が、我々の介入でどのように変化するかを観察し、楽しむためのな」

「命令を遂行できなかった場合は、その場で死んでもらい、地獄の最下層に行ってもらうことになる。まあ、命令以外のことは好きに生きて構わないし、3つの命令が終わった後は自由だ」

えらく傲慢だな。さすが神様。しかし、この神様やたらとハイテンションだ。そんなに転生させるのが楽しみなのか。呆氣にとられる前に、逆に落ち着いてきたぞ。聞けることは全部聞いこう。

「3つの命令とは何があるんですか？」

「お主の命令はちょっと特別でな。原作組に関わっても、関わらんでも良い。原作通りに進めても良いし、原作破壊してもいい」

？よくわからないな…

「コンセプトは人間頑張ればどこまでいけるか、確かめようだ！」

は？

なんだその良い笑顔は…

「それではお主に3つの命令を伝える。？原作開始までに天空闘技場にてフロアマスターになる？キメラアント編終了までにグリードアイランドをクリアする？王・護衛軍4匹中3匹と戦闘する」

は？

………はぁ！？

「まあ、少し難易度が高いから、他の転生者より早く生まれるようにする。」

そんな問題じゃねえ！

「ちょっと待て！！おい！爺！！」

爺は良い笑顔からニヤニヤといやらしい笑みに変わり、本来に楽しそうにしていやがる！

「それでは行つてこい！」

だから、待てって言うてんだろ！

クソ……意識が………

誕生（前書き）

まだまだ原作前です。

主人公の名前は響きで決めました。

誕生

クソ……苦しい…

なんだよ、これ。転生させたんじゃないのか…

苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい
苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい苦しい
ルシイクルシイクルシイクルシイクルシイクルシイクルシイ

光が…

泣き声が聞こえる…

これは俺か…？

俺が生まれたのか？

なんかかなり辛く、体に力が入らない。ていうか体から力が抜けていく。赤ん坊ってのはこんなもんなのか？

周りの音、自分の泣き声を聞きながら、ぼんやり考えていたら、ふと気づいた。

体から『何か』が抜けていつている。自分の中にある『何か』が。

全身を包んでいる『何か』が急速に消費されているのが。

アレ？

これオーラじゃね？

念能力の覚醒じゃね？

………やっべえ！！オーラって生命エネルギーだろ！大人でも出し切ったらぶっ倒れるのに、生まれたばかりの赤ん坊がオーラ出し切ったらどうなるんだよ！っーか死ぬ！たぶん死ぬ！まず死ぬ！

なんで生まれたばかりで覚醒するんだよ！普通は瞑想なんかして覚

醒するんだろが！！念能力に目覚めやすくなるっても限度があるだろ！！生まれた衝撃なの？転生して世界渡ったせいなの？死を体験したせいなの？バカだろあのジジイ！！！！

ヤバイ、ヤバイ、ヤバイ！！早くどうにかしなければ、死ぬる。何をすれば、どうすればいいんだっけ。ああ、えーっと。

クソ、パニックってあたまが回らねえ！

……………そうだ、『纏』！！

体の周りにあるオーラを纏うイメージを、全身を廻るイメージを、落ち着いて、リラックスして…………おい、俺すっかりしろ。出来なきや死ぬぞ。

廻れ、廻れ、廻れ、廻れ、纏え、纏え、纏え、纏え！

意識が霞んできた…

もっと集中しなきゃマズいのに…

……クソ、死にたくねえなあ

いつの間にか眠ってたみたいだ。

つーか生きてる？俺生きてるの？また死んだとかじゃない？大丈夫？

…体の感覚はある。オーラも感じられる。息もしてる。周りの音も聞き取れる。

大丈夫っぽいな。

ああ、滅茶苦茶びびった。マジ死ぬかと思ったわ。しかし、転生して初めて死を身近に感じたのが出産直後って早すぎだろ。他の転生者、死人でるんじゃないかねえか、これ…。

余裕が出てきたので周りを探ろうとするが、目も開いてない赤ん坊では無理があると断念。本当に転生したか確かめたかったんだけどなあ。まあ、無理してもしかたがないし、ジジイとの一方的な会話でも整理しようかな。

…整理するまでもないな。要は今、俺がいるココはHUNTER×HUNTERの世界で、俺は3つやらなければいけないことがある。

命令だか試練だか知らんが、全部に共通することは、強くなきゃ話にならんってことだな。

特に3つ目。何だよ王・護衛軍4匹中3匹と戦闘って、最低でもゴンやキルア並に強くないと無理だろ。でも、出来なきゃ死ぬだけだしなあ…。

とりあえず頑張ろ。

まず、纏に慣れなきゃな。今も解けかけてるし。

ヘイ！俺はリズ・アナスタシア！今、母親に抱かれているの。

…おい、女みたいな名前と思った奴いないよな？ちなみに俺は思った。普通に目が開くようになって、速攻確かめたからな。ちゃんと今生も男でした。俺っ娘じゃねえぞ。

ようやく1歳になったんだが、やれたこと、わかったことは少ない。念についてはまだ纏と絶しか出来ていない。練？一回試したよ。速攻ぶっ倒れたけど。他にやれることがないから、燃のほうを重点的にやってる。瞑想って大事だよね。念って心が重要だし。ひたすら強くなること、生き残ることを目標に瞑想している。

わかったことはさらに少なく、今がいつかも、ここが何処の大陸な

のかもわからない。おかげで何の計画も立てれない始末。

わかったことといえば、自分の名前と家族構成が俺と母（幸薄そうな病弱な美人）ということのみで、後の親族は誇りのために死んだと母が俺に語ったくらい。

俺の父や親族は軍人か何かだったんだろうか？

それと今住んでいる場所のことぐらいは何とかわかる。

たまに銃声や断末魔が聞こえるステキなスラム街です 俺ん家はスラム街の端の方にあり、普通の町に近いためまだ治安はマシとは言っても、かなりヤバイ。

母の体調がガチでマズそうだし、早く成長してスラム街から出て行きたい。

おまけ

俺の家は母が病弱なため働けず、どうやって生活しているのかを考

えていると、母が本を片手に俺の側に来た。

「リス、一緒に本を見ましょう」1歳過ぎの子供に何をみせるのかと。ハンター文字はまだ読めねえぞ。絵本ぐらいで勘弁してくれ。

「さあ、お膝の上に乗りましょうね」

母は俺を膝の上に乗せて、本を開いた。

…これはアルバムだな。

「これがソフィアママですよー」

へえ、今よりも断然きれいだな。幸薄そうだけど。

「隣にるのがアントニオパパよ。これよ、これがパパですよ」

そんなに指をささんでもと思う俺はかなりの親不孝。ちなみに父は精悍な顔つきをしたスカーフェイスです。

「こっちにいるのがルチアーノお祖父さんとエツィオ叔父さん」
ずいぶんと恐い面構えですな。なかなか個性的な親族ですね。

「こっちがみんなとパパの友達の集合写真ね」

…どう見てもイタリアンなマフィアです。本当にありがとござい
ました。

現状把握（前書き）

話はあまり進んでいません。

早く天空闘技場にいかせたい…

現状把握

俺は4歳になった。

これまでにやれたことは相変わらず少ない。念は精々練と凝ができるようになったくらいで、後は纏と絶をひたすら繰り返しただけ。

まあ、そのおかげで纏は寝てても維持できるし、絶も完璧にできるようになった。家で絶の練習をしていると、母が俺を探し回り、外に出て行くこうとすることが何度となくあるくらいには完璧。

…生き残る為には、強くならなきゃいかにのに、一番得意なのが絶つてのは俺もどうかと思う。

だけど俺、絶は簡単にできたんだよね。気配を消せるだけじゃなく、疲労回復にも役立つから重宝している。練の修行が終わった後とかに。

練といえば、俺は3歳になってから修行し始めたんだけど、できるようになるまで一週間かかった。体内で練ったオーラを留めるのが難しくてなあ。

超天才のゴンキルコンビが1日つか半日、かなり才能のあるズシが何週間も掛かったはず。

それ考えると、俺の才能はズシ以上ゴンキル未満か。ゴンキルに及

ばなくても十分天才と言えるな。時間はあるし、主人公を抜くのも夢じゃねえな。

そう時間はあるんだよ。ハンター文字を習得して（基本50音と対応してるから意外と簡単だった）、色々と調べてみたら、俺が生まれたのが1985年2月だった。原作開始であるハンター試験は2000年頭のはず。

つまり俺が15歳になる直前にハンター試験は始まる。後、11年くらいの時間はある。この期間でどれだけ強くなれるかで、生き残れるか、死ぬかが決まる。

そして、俺が生まれ、今生きている、この場所がどこか分かった。地図で言うと、左上のアフリカっぽい形をした大陸。もっと分かりやすく言うならば、パドキア共和国、つまりキルアの実家がある大陸。

そう、わかるだろ？

ここには何よりも大事な…

『天空闘技場』があるんだよ!!!

しかも、俺の住んでいる国に！

結構離れているけど、それでも違う国、違う大陸だった場合を考えると、かなり助かる。

これを偶然だとは思わない。

さすがにご都合主義に過ぎる。クソ神がなんかやったんだろう。俺の一つ目の命令が『？原作開始までに天空闘技場にてフロアマスタになる』だからな。違う大陸に生まれて、原作までに天空闘技場にたどり着けない場合は目も当てられない。

本当に出来なかったら、死ぬかは分からんが、試すのはリスクすぎるし、強くなって損は無いだろう。

まっ、とりあえずは鍛えて天空闘技場に行かなきゃどうしようもないな。

取り敢えず、体作りを始めようかね。筋トレとストレッチでもして。

おまけ

オーラを体に纏う…

『纏』

オーラを消す…

『絶』

オーラを大量に生み出す…

『練』！！

オーラを目に集中！

『凝』！！

ふう、結構良い感じだな。一つ一つが滑らかに出来るようになって、上達してるのが自分でもわかる。

しかし…

なんか忘れてるような…

なんだっけ…

…うーん

あ、『発』やってねえ…

スラム街での日々（前書き）

主人公がどんな奴かの説明回。

単純バカで深く物事を考えようとして、深く考えず結論を出すようなアホ。

悩んでもすぐに開き直る、そんな奴。

系統は当然アレ。

スラム街での日々

今生きている世界は現実なのか、実は寝たきりになっている俺の夢なのではないか？それとも、俺は二次元の世界に入り込んでいて、全てが作り物の偽りの世界なのではないか？

…なんて柄にもないことを考えてみた。

いやー、いきなりHUNTER×HUNTERの世界に転生して、あまりにも違和感なく生きているので、後々迷って挫折やら、後悔をしないように、今のうちに自分の考えをまとめようかと。

そして、俺は俺なりに考えてみた結論は…

そんな細けえことはどうでもいいんだよ！！！！！！！

いやだつてさ、実際その時にならないと答えでねえじゃん！

胡蝶の夢だか、まな板の上の鯉だか、マトリックスだか知らんが、考えたってどうしようもないんだよ。

自分が現実って思えば現実だし、本物って思えば本物なんだよ！

おっと熱くなっちまった。

しかし、他の転生者で迷ってる奴とかいるんだろっか？本当に他の転生者がいるか知らんが。

まあ、他は他だ。

俺は好きに生きよう。

そんなこんなで俺は6歳になりました。

俺はスラム街を歩き、家に帰りながら思い出す。

スラムデビューして早一年半。

修行メニューに筋トレと発の修行を加えて半年たった頃、このまま引きこもりやるのはマズいと外にで出ようと決心したが、最初は大変だった。

俺がガキ過ぎて、ストリートチルドレンや孤児、スラムで暮らしている子供達に相手にされない。根気よく話をする、食うことにも困る生活してて、俺を相手してる暇がないと。

俺の家も、蓄えに余裕は無いし、そろそろ収入が無いとマズいので、何としても稼ぎが欲しかったから必死にアピールした。幸い俺は体鍛えてたし、念も使えるから、4歳半とは思えない身体能力してた。

何とか、取り分は少ないが仕事に連れて行ってもらえるようになった。

なっ
たが…

仕事ってゴミ漁りや缶拾いだと思ってたよ…

まさか盗みや置き引きが主な収入源とは…

前世での平和な日本の暮らしからは考えられんな。

…いや、前世の世界でもこんな暮らしをしている子供はいただろう。

ましてや、ここは命が軽いHUNTER×HUNTERの世界。

俺が甘かったただけだな。

まあ、前世での甘い倫理感なんて今はもうないないけどね。

盗みが失敗して逃げ遅れた友達がリンチされて死んだ。

証拠もなく警察に捕まった奴らがそのまま帰って来なかった。

ラリった親に意味もなく殺された奴がいた。

マフィアの物に手を出して連れて行かれたグループがいた。

迷い込んできた観光客をみんなで的にして殺した。

吐いたり、悪夢を見たりもしたが、次第に慣れた。

むしろ将来的に役立つんじゃないの？とか思っちまうようになった。

まったくスラムは地獄だぜい。

だけど将来原作で、さらなる地獄を見るはめになるよな。ハンター試験だけでもどんだけ人死んでんだよ。

そんなことを考えながら、角を曲がると人にぶつかりそうになった。

「すみません」

取り敢えず凝をする。最近は何かあるたびに凝をする癖をつけてる。

しかし、このデブ誰だっけ？

「てめえどこに目を付けてやがる！」

…ああ、ここら辺りのボス（笑）を気取ってるガキ大将か。

名前は…なんだっけ？丸いからマリオでいいな。

「ごめんなさい」

14、5になる奴が6歳に絡むなよ。

「なんだその目つきは！！舐めてんのか！！ああ！？」

唾を飛ばしそうに喚きながら、拳を振り上げるマリオ（仮）。

…これ避けたらダメだよなあ。鬱陶しい事になるのは勘弁。

拳を避けるより、面倒を避けたい。

左頬に衝撃。その勢いに任せて倒れ込んでおく。

「調子こいてんじゃねーぞ！！クソガキが！」

そう叫びながら、俺を蹴たぐり回す。

「これに懲りたら二度と舐めた態度をとるな！！」

マリオはそう言い、最後に俺の腹を蹴り上げ、俺に唾を吐き捨てて

去っていった。

纏をしているからダメージはない。

…ダメージはない。

ダメージはないが……………

ムカつくな、あのデブ。

覚えてろよ、絶対後でやり返してやる！！

恩には恩で、仇には10倍返しが、俺のモットーだ！

その時を楽しみにしてやがれ。

家に着いたので、さっきの事は忘れて、念の修行を始める。

とは言っても、基礎である四五行と凝、後は燃しかやっていない。

これにはちゃんとした理由がある。

俺のオーラが少ないのだ。

応用技に進むのが難しいくらいに。

最初は才能や資質の問題かと焦りに焦った。

しかし、よくよく考えると、問題ない事に気づいた。

オーラとはつまり生命エネルギー。

生命エネルギー〓体力や生命力だと俺は考えたわけだ。

6歳の俺の体力や生命力が高いわけがない。

だから当然、オーラも少ない。

なので俺は体を鍛えながら、年を重ねて自然とオーラが増えるのを待つことにした。

間違っているとしても、顕在オーラも潜在オーラも訓練で増やせると原作で言っていたし、基礎を大事にする事は後々プラスになるだろう。

俺、強化系だったしな。

ただ、念は心や精神状態にも深く影響されるから（燃で念が向上するし）、体と心の両方（+血筋）が関係していると考える。

つまりどういう事かというところ……

NARUTOのチャクラと似たようなものじゃねーの？

あれは身体エネルギーと精神エネルギーを混ぜ合わせたものだったはずだし。

似てると思うんだよねあ…。

血筋が何よりも大事ならマジどうしようもねえ…。

オーラ量に血筋は関係なくても、体だけではなく心も未熟つーことになっちまう。

……燃の割合増やそうかな。

母は相変わらずベッドで寝ている……。

おまけ

鏡の前に立つ。

鏡には黒髪茶目の子供が写ってる。

…。

ポーズをとってみる。
ひどいマヌケが写ってる。

……。

ガンとばしてみる。

… 目つき悪!! 柄悪う!!!!

こりゃ絡まれるわ。気をつけよう…。

バイバイスラム（前書き）

私は生みの親より育ての親派。

バイバイスラム

6歳の冬、年末の出来事だった。

スラムでいつもどおり盗みをやり、仲間で稼ぎを分け合って、その後将来の夢や他愛のない話をしていた。

その後もういい時間なので解散し、みんなそれぞれの家に帰って行った。

俺も家に帰ることにしよう。

今日の夕食は何にしようか、なんてこと考えながら家路をたどる。

家に着き、ドアを開け、違和感を感じた。

「ただいまー」

返事が無い。

寝てるのか？

何だ？この違和感は……………

母を見る。

そして違和感の正体に気づく。

家に入った時から自分以外のオーラを感じない。

母のオーラを感じない。

凝をしているのに母のオーラが見えない。

念が使えない母はオーラを垂れ流しにしているはずなのに。

母はまるで寝ているように死んでいた。

『ついに』と言つべきか、『やっと』と言つべきか。母は死んでいた。

悲しくはない。

正直どうしてもこの人を『母』だとは思えなかったからだ。

俺にとつての『父』や『母』は前世の両親だ。この人はこの世界で俺を生んで育てただけだと思つちまう。

ただ生活するために一緒に暮らしていただけ。俺からは必要最低限の事しか喋らず、この人から話しかけられても、おざなりに対応していた。

特に盗みをはじめ、金を稼げるようになって、鬱陶しく感じるよ

うになった。煩わしく思うようになった。

邪魔とさえ考えた。

所詮仮初めの『母』。死んだところで何も感じない。

なーんて思ってたはずなんだけどなあー。

なんだよ、この喪失感……………。

思いこんでただけで、実際は情が移ってたってことかよ……………。

ああー、クソ……………。自分が悲しんでいるかどうかもわかんねえ。

本当に何やってんだか……………。

嫌いなら嫌いで、甘えずにとつと家出りやよかつたんだよ。

好きなら好きで、もつと甘えて、一緒に過すごし、病気を治す念でも作りゃよかつたんだよ。

どちらもせず、どっちつかず。

本当にただ中途半端。

俺は何がしたかつたんだろうな。

… ああ、ただ生き残りたかつたのか。

死にたくなかつたのか。

そのために『母』を踏み台にしようとして、中途半端に終わったのか。

本当に下らねえー。

俺はベッドに近づき『母』の頬に触れる。穏やかな顔だ。病気で苦しかったはずなのに。

俺は母の泣き言を聞いたことがない。

ただ俺を愛してくれていた。俺は気味の悪い子供だったろうに。

俺は最後に母といつ、何を話したかもよく覚えていない。

なんつー親不孝者だ、と思わず笑う。

もう、親孝行は二度とできない。

俺が生きていることが最大の親孝行だ、なんて言えないし、言いたくな

い。

俺が中途半端なせいでこんなことになった。

誰も、自分すら救われない。

もう、こんな中途半端なこととはしないと心に誓おう。

誰よりも自分のために。

こんな俺でも最後に母の墓を作るくらい許されるよな？

あれから年を越し、誕生日を迎え、春が近づいてきた。

いつもより騒がしい街を歩きながら考える。

今日俺はこのスラム街を出る。

家の物は全て処分した。

持っていく物は着替えと水筒、後は金だけだ。

金はいれから貯めた盗みの分以外にも臨時収入があったため、十分に余裕がある。

今は世話になった人達に挨拶して回ってるところだ。

ま、次で最後の人だ。先輩だし引き締めて行こう。

ほどなくして目的の場所にたどり着いた。

「ようリズ。出て行くんだってな」

先輩は相変わらずニコニコしてる。

名前は知らない、ただ先輩と呼べと言われた。

先輩は俺がスラムに出たばかりの頃、俺にスラムでのいろはを教え
てくれた人だ。母が死んだ時も黙って俺を手伝ってくれた。本当に
頭が上がらない。

「はい。用意も済んでいるので、後は出発するだけです」

「そうか。早いもんだねー。将来出て行くとはいつも言ってたが、
やっぱり天空闘技場？」

先輩はそう言っただけでニヤリと笑う。

「いえ、まずは山に行こうかと」

「は？山？なんだって山なんかに？」

いやー、そりゃやっぱり。

「修行と言えば山でしょう?」

俺は真面目にそう思うよ。山、いいよ山。ここじゃ、おちおち修行も出来やしないし。天空闘技場に行く前にやることは、いくらでもある。

つーか、今天空闘技場に行っても200階まで上がれる気がしない。

「はっはっは!そうか!お前ならどこ行ってもうまくやれるだろう!」

俺はどう思われているんだ…

「まっ、リス。気をつけて行ってこい!」

「はい。先輩もお元気で」

あーあ、早く強くなりてえな。

おまけ

「そう言えば街が騒がしいですが何かあったんですか？」

「お前知らなかったのか？チェザーレがマフィアの金に手を出したって街中大騒ぎだ。あそこのグループは見せしめにみんな殺られてよ」

「チェザーレ……？……………ああマリオですか」

「？マリオ？まあいい。盗まれた金をマフィアが躍起になって探していてな、大半がチェザーレの家で見つかったって話さ」

「馬鹿ですね。こうなるってわかりそうなものですが」

「まあな。まあ自意識過剰な上にバカな奴だったし、わかってなかったのかもな」

「最後まで物騒な街です」

「まったくな」

.....
本当に物騒な街だねえ。

.....
ねえ？

山村（前書き）

ぐだぐだな繋ぎ回

山村

あれからスラム街を出て、一番近くで一般人でも入れる山に着いた。
麓に村があるので挨拶をしたのだが…

「ダメダメ！子供が1人で山にはいるなんて、なに考えてんだ」

…やっぱりダメ？常識的に考えりゃ、そうだよな！。挨拶したのは失敗だったか。しかし、修行場がないと困る。

「えーと、猟師さん？俺、結構強いですよ。なんなら今から試してもらっても」

「強かるがガキはガキだ！だいたい、どうやって山で暮らす気なんだ？お前、獲物捕まえて、それを捌くことができるのか？」

…出来ないな。

しかし、どうしたもんか。

「…お前、親はどうした？」

あー…、正直に言うか。ダメもとで情に訴えよう。

「両親は…死にました。生きる為に強くならなきゃいけないんです。どうか山に入る許可をください！」

OKだしてくれよー。ついでに山でのいろはを教えてくれるなら、儲けもんだな。

獵師さんは何やら悩んでる様子。さてどうなる。

「……………そうか。村に置いてやる。そこで強くなればいいだろう？」

そうきたかー。

「しかし、それではご迷惑になるのでは？お金も余り持っていないせ
んし」

「ガキがそんな事気にすんな。俺の家に置いてやる」

…マジっすか。滅茶苦茶有り難いんですけど。

遠慮なんかしてられねえな。

「それでは……………お願い出来ますか？」

「おう！お願いされてやる！」

そう言い、猟師さんは快活に笑った。

カンツさん（猟師さんの名前。あの後わかった）の家に住み着いた訳だが、最初は山に連れて行ってくれなかった。

正直な話、山でのノウハウを教えてくれるのを期待していただけに、チヨッピリ落胆した。

まあ、家事の手伝いをしながら、体を鍛えて、認めてもらえるのを待つことにした訳よ。

しかし、この世界の人間はスペックおかしよな。7歳の子供が腕立

て200回×3セットとか出来るんだぜ？

カンツさんも苦笑いだったけど。

念に関しては堅と硬の練習も始めたんだが、硬とか習得に一月かかったわ。堅も最初1分保たなかったし。

日が沈み始めるまで体を鍛え、最後に力尽きるまで堅をする。

そんな感じで鍛え続けて3ヶ月。

いい加減山に入りたいが、カンツさんが認めてくれなし、山で生きる技術がない。ならばせめて、山と一緒に連れて行ってもらえないかと聞いても渋い表情。

なのでパフォーマンスをした。

念能力全開でな！！

オーラを足に集め、霞むような速度で動き、硬で岩を割る。

この時点で、大人達は目を点にして驚いていた。

さらに絶を使い気配を断ち、連れて行ってもらっても足を引っ張らないとアピール。

周りの大人にこれなら大丈夫だろうと言われ、カンツさんもしぶしぶ山に連れて行くことを認めた。

そこからはカンツさんに着いて山に入り、狩りの仕方、獲物の捌き方、植物についての知識などを学んだ。

動物を殺すのには抵抗なかったし、それを食うのも問題なかった。

問題があつたのは獲物を捌くことだった。
まず捌き方がわからない。

捌き方を教えてもらって、実際に動物を捌くと、内蔵を引きずり出し、皮を剥ぐ、感触、匂い、音に吐きそうになった。

ゴメン、嘘。見栄張った。

普通に吐いた。

オボ□□□□□□って。

生き物を殺すのならともかく、解体するのは全然慣れなかった。何
度も繰り返してようやく吐かずに出来るようになったが、我慢して
るだけで気持ち悪いのは変わらない。

一時するとカンツさんは俺にも狩りをやらせてくれるようになった
が、武器は銃や弓を選ばずに大振りのナイフを選んだ。

やっぱり武器っていったら刃物だろ。つーか銃や弓は性に合わんし、
天空闘技場のことを考えたら、近接武器の方がいいだろう、たぶん。

カンツさんには呆れられたが…。

小動物の狩りに慣れた頃、俺は敢えて猪を狙うことにした。自分が
どれくらい出来るのか確かめたかったから。

しかしダメダメだった…。

気配を断ち、音を殺し、忍びよるのは出来たんだが、ナイフを急所
に突き立てるのが出来ない。変な所に刺して振り回され、結局拳で
猪を地面に沈めた。

似たようなこと計5回。

カンツさんに武器を変えろと怒られた。

しかし弓や銃は使う気が起きない。

ならばと後一回だけやらせてくれと泣き落として、今度は最初から素手で猪にリベンジ。

結果、纏のみで瞬殺。

俺にはナイフの才能がないっつか、武器を持って戦う才能がないことがわかった。

……いいもん。強化系だから素手でも大丈夫だもん。

でも刃物使いたかったなあ…。

…話がそれた。

それからは素手で狩りをするようになり、ナイフは捌く時にしか使わなくなった。

まあ、そんな感じで狩りを勉強しながら生活し、半年が過ぎた。

「カンツさん、俺そろそろ山に籠もろうかと思うんですが」

「リス、お前はバカか！今から冬を迎えるんだぞ！？どうやって冬を過ごす気だ？」

あ、考えてなかった…………。

けどなあ、そろそろ修行を本格化させないとマズいんだよねー。天空闘技場には早く行きたいし。だけど、無理して山に籠もって死んだらシャレにもならんしなあ。

「だいたいお前なんで山に籠もりたいんだ？鍛えるならここでも出来るだろう？」

「1人でやりたいことがあるんですよ」

「やりたいことお？そりや何だ？」

それはだな……

「秘密です」

ドコオ……!

「イッテエ……!」

拳骨落とされた。そんなに怒んなくてもいいじゃん……。

「まったく、バカガキが。とりあえず、まだ教えてる事は山ほどあるんだ。冬の間覚悟しておけよ」

「……はい」

ゴネても仕方ないし、その間鍛えまくるしかないか。

オマケ

俺の堅の持続時間はまだ30分ほど。

原作でゴンは、通常時の堅1時間が戦闘時の堅10分に相当するみたいな事を言っていた。

つまり単純に考えると、俺は戦闘時に堅を5分しか維持できないってことになる。

まだ、実戦で使えるレベルじゃない。早急にどうにかしたいところだ。堅の持続時間は潜在オーラ量に比例するだろうから、一番集中して鍛えなきゃいけないしな。

…アレ？そう言えばゴンキル、一月で1時間から3時間まで堅の持続時間伸ばしてなかったっけ？

…………アレ？俺、半年かけて持続時間30分？

うん、年齢の差のせいだろう？きっとそうだよ、そうに違いない。

……そうだよな？

修行（前書き）

色々とはっちやけた回。

そしてわかる人にはわかる。

修行

今、俺は山奥の小屋にいる。

冬を越えて、俺が8歳の誕生日を迎えてから、カンツさんは山籠もりをするのを認めてくれた。条件は猟師の休憩所である山中にある小屋に住むこと。たまに様子を見にくるらしい。子供が1人で山に籠もるのはやっぱり心配なのだろう。

そう、俺はようやく山籠もりをすることが出来るようになったわけだ。

とは言っても新しい環境なので、まずは狩りを優先し、ちゃんと生活が出来る目途がつくまでは本格化な修行はできない。

近くにある水場を確認し、獲物がいそうな場所の下調べ、山菜がある所をチェック、危険生物の縄張りの調査などをする。これらが終わったら狩りを始め、開いた時間に修行をやる。

新しい生活に慣れる頃には1ヶ月経っていた。

今日から本格化的な修行を開始する。

ふふふ。わざわざ山に籠もって何がしたかったと言うと、アレだよ。アレ。

ゴンキルがグリードアイランドでやってた『穴掘り』がやりたかったんだよ。

まあ、正確には『道作り』をするんだが。俺は山に穴を掘っていく技術ないしな。

体作り、オーラ総量と念の技術アップ、獣に対する周りの警戒力アップ。一石二鳥ならぬ一石三鳥だ。

カンツさんにも「水場まで道が険しいんで、道を切り開いていいですか？」と伝えたら、やれるもんならやってみると笑って道具をくれた。

冗談と思っているのか。たいした事はしないと思っているのか。どっちにせよ言質は取った。自然破壊し過ぎないように修行を開始しよう。

湧き水が出る場所まで約2キロ。小高い丘もあれば、窪地もある。勿論、木々が生い茂っている。

まずは丘まで木を切り倒すかな。切った木は小屋の近くにまとめて置いておいて、溜まったら切り分けて村まで持って行くか。切り株は…シャベルに『周』をして掘り出せばいいな。

しかし、毎日やるのもバランスが悪いな。ローテーション組むか。
狩り・道作り・念の修行…の繰り返しでいいかな。問題があったら
その時変えればいいだろう。

さて、それじゃあ…始めようか！

く3月く

そろそろ木が溜まってきたな…。村まで持つて行くか。

…重い。もう2時間はかかっている。荷物が無きや、1時間もかから
んのに…。

あつ…。

ガラガラ！ゴロンゴロン…

木がばらけた…。クソ！

く4月く

コンッ！コンッ！

どうした！こんなに切れ目を入れられて！今にも倒れそうじゃねえか！ここか！ここがいいのか！ほら！ほら！もう我慢できないだろ！フハハハハ！！！！

……………むむ？なんかいるな。

昼下がりの情事ごっこ（木と木こり、禁断の愛V e r）を邪魔するとは良い度胸だ！

…狼か。

3、5、6、9…結構いるな。この間やられた仲間の敵討ちのつもりか？

ククク…。馬鹿め。獲物がそっちから来てくれるとはな！！！！

ヒッシャー！！新鮮な肉だー！

く5月く

『流』は問題ねえな。努力すれば上達するのがわかる。

『隠』は……………どうすればいいんだろう？あれかな？勘でやるしかないのかな？

見えづらくなーれー。薄くなーれー。

……………こんなんで大丈夫かな？出来るようになる気がしないんだが。

『円』？アア、ソナノアリマシタネ。

く6月く

ふうー。ようやく丘までたどり着いたな。

まずは丘を丸裸にすると。その後、切り崩すか。丘なんて消滅させてやるぜ！

作業も慣れてきたし、ペースを上げていくか。頑張つて年内に終わらせたいからな。

土は……どうしようか。

…窪地に捨てるか。

く7月

イテエ…。

さすがに熊っぽい生き物と念無しで、正面からど突きあいは無謀だったか…。

しかし、勝てたな。凄まじい成長率だ。熊っぽい生物を撲殺する8歳児。やっぱりこの世界の人間のスペックはおかしいな。空気にプロテインでも混じってんのか。

あれ？茂みで何か動いている。

……子供か。

こちらを威嚇にしてるな。…当たり前か。俺がこの子の親を殺したのだから。

このままじゃ飢えて死ぬだけだな。

俺のせいだし、責任を持って

美味しく頂こう。

～8月～

カンツさんにやり過ぎだと怒られた。

山を何だと思ってるんだって。

修行場と答えたら殴られた。

平謝りして、何とか許してもらえた。

キリの良いところで止めると伝えた。

…最後までやるのが一番キリが良いな。

（9月）

最近、成長が凄い。

背も伸びたし、堅も1時間半を超えた。流もかなり速くできるようになった。

成長期ってやつか？…いや早すぎるな。

なら才能が開花したってやつだな！

なんかシヨボいけど。

え！？隠？円？

何のことかわからないなあ。

（10月）

村に木材と毛皮を持っていったら、カンツさんがいつも通り日用品をくれた後、本を渡してきた。

格闘技の本が3冊、狩りやスカウト、トラッキングに関する本が2冊。

いつも毛皮持って来てるから、そのお礼らしい。

強くなるために頑張れってさ。

カンツさん。マジいい人。

〽11月〽

祝・丘・消・滅!!!

何とか年内に終わった。寒空の下、滅茶苦茶頑張った甲斐があったな。

どうせなら、湧き水までの道も一気に終わらせるか。食料はストックあるし、そもそも獲物が少ないから、狩りの時間を減らせるし。

さあラストスパートだ!!!

〽12月〽

長かった…。

しかし！今日で!!!全て終わりだ!!!!!!

いやあー。達成感がハンパねえ。

だいぶ鍛えれたし、やって良かった！

さて、これからどうしようかな？

とりあえず年末年始くらいはカンツさんと過ごすかね。

ふむ。これからどうするか迷うな…。

いくつか選択肢を用意するなら

？このまま山に籠もり、基礎を固める。

？天空闘技場に行く。

？別の危険な山に籠もり、魔獣なんかと殺し合いをする

といった所か。

俺的に？はないな。そうするくらいだったら、天空闘技場で対人戦の経験を積みたい。そもそも、俺みたいな子供を危険な場所に入れてくれんだろう。犯罪犯してまでやりたいワケじゃないしな。

なら？か？だな。どっちにするかなー。うーん。

………せっかくカンツさんに本をもらったし、鍛える為に？にするか。

系統別の修行もやってないし、格闘技の修行もやっとなないと天空闘技場でキツイだろうしな。

じゃあ、また山籠もりするぞー！！

体作りではなく格闘技の修行を始めた。

日々、雨だろうと晴れだろうと修行し続ける。

木に毛皮を何重にも巻きつけ、力任せではなく、本に載ってるような動きで、動作をひとつひとつ確認しながら、丁寧に打つ。蹴る。突く。

それを朝早く起き、ストレッチと念の基礎をやった後に、ひたすら日が沈むまでやる。

日が沈んだら、夕食を取り、系統別の修行をやった後、力尽きるまで堅と流をやる。そして寝る。

念の修行の日は初めに基礎である四五行をして、堅と流の練習、最後に系統別の修行をする。

系統別修行は1日1種類、強・変・強・放・強…のローテーションでやる。

狩りの日は、感覚で獲物を追うんじゃなく、本に載ってるようにしつかり動物が残した痕跡を見つけ、獲物を追い詰めていく。

空いた時間は燃の修行に当てるか、気晴らしに散策でもしたりする。

こんな修行の日々を送っているが、ぶっちゃけビスケがゴンキルに

やっていた修行のパクリだ。

なんでこんな事覚えているかと言うと。燃の修行をする時、これらの事や強くなる為に必要な事を思い返しているからだ。

つーか原作の重要な事くらいなら、命が懸かってんだから覚えてるさ。むしろ忘れるとか、どんだけ危機感がないんだって話だ。

村に初めて来た時、カンツさんに紙とペン貰って、時系列書いたしな。勿論日本語で。

たぶんキメラアント編に入るまではだいたい合ってると思う。キメラアント編は時系列がよくわからん。王とコムギが再会するまでしか、俺生きてなかったし。

……ちくしょう。

続きが気になるじゃねえか。もう向こうの世界に帰れる見込みはないのに。…今更帰る気もしないが。

…と話が逸れた。

まあ、格闘技と念の修行をやってる訳だが、こうなると考える事がある。

発についてだ。

だが俺は強化系。発が無くても、基本を極めればそれが武器になる。しかしやっぱり自分だけの必殺技。念能力は欲しい。

…どうするかなあ。念能力を作るにしても何を強化するか思いつかない。

武器を強化する……駄目だ。銃、弓なんかは柄じゃない。刃物は心惹かれるが、ナイフ・鉈は才能が感じられない。剣や槍は習得する時間も無ければ現物もない。

身体を強化する……一体身体の何を？

感覚を強化？普段似たような事はやってるし、戦闘系の発が欲しい。ならフィックスみたいに制約を決めて、攻撃力アップ？いや駄目だな。パクリなのは全然構わないけど、心惹かれない。

念能力に大事なものは、自分に合っているという事。

なら刃物を使えるようにする？才能を念能力でカバーすれば刃物を武器にする事ができるようになる。

…無いな。それが出来るようにするには制約があるだろうし、その問題をクリアしても武器が上手く使えるようになるだけ。作るだけ無駄になる。

なら纏うオーラを刃に変える……………悪くはないけど、それは変化系の能力だ。強化系の俺がやってどうする。

出来れば強化系が中心で、変化、放出をサポートに使うような能力。そして、自分に合った能力。

…………駄目だ。思いつかない。

しゃーねえ。発は後回しにするか。

そもそも自分に合っていると感じて、系統に合う能力が思いつかない。

心惹かれるのが、才能がない刃物だけってんじゃない話にならないな。

ん？

刃物の才能がない？

だけど刃物に惹かれる？

俺のバトルスタイルは今のところ素手。

そして強化系？

……いやある。条件に合う能力がある。

パクリだが確かにある。

……しかし、弱いか。これじゃ念能力と言うより、ただの技術・流派。

……制約をつければ？だがどんな？弱い制約じゃ意味がない。

……いや元ネタを考えれば、制約になるものがある。

しかし、それでも制約は弱い…。

…ガチガチに制約で固めるか？誓約で命も懸ければ強い念能力になるか？

……いける。これなら戦闘に使えて、かつ自分自身の嗜好、系統に合う……！

完成するのはまだまだ先だが、制約と誓約は今から適用するか？

……少し煮詰めてから適用しよう。早く適用した方が強くなるような気がする。

よし。格闘技の訓練を少し追加しよう。指先の強化訓練や手刀・足刀の練習でいいかな。

そつと決まったら燃を、瞑想を始めよう！

……自分を一本の刀に見立てる。

俺は一本の刀だ。

そうして1年の月日が過ぎた。

おまけ

「おうリズ！ようやく下りてきたな。」

「お久しぶりです」

「本当に久しぶりだな。大きくなりやがって！」

「修行はとりあえず終えて、そろそろ天空闘技場に行こうかと」

「お！行くのか。数日待つてな。俺が連れて行ってやるぞ」

「本当ですか？いつも申し訳ありません」

「だからガキが気にすんなって言うてんだろ。それにしても本当にデカくなったな。ちよつと測ってみるか。待つてな」

「メジャーで測るんですか？」

「だいたいでいいんだよ。えゝとこれちよつと踏んでろ。あー……」

「……身長１７１センチ！」

「………１７１い！？」

「やべえ、前世の身長ともう変わらんぞ。」

「身長１７１センチ！ボク１０歳！！！」

はじめての天空闘技場（前書き）

今回は話が短いです。

戦闘中にアレコレと能力発動条件を満たすのは面倒くさい。

ならば、普段から条件を満たすような能力にすれば良いじゃない。

そして、失敗する。

そんなお話。

ツッコミはお手柔らかにお願いします。

はじめての天空闘技場

ここが天空闘技場……。

あれから、カンツさんに送ってもらいここまで来たのだが、なかなか感慨深いな。

ようやく始まるって感じた。

お？受付、俺の番か。

何々……。名前、生年月日、血液型、格闘技歴、etc……

格闘技歴は…素直に1年でいいな。別に早く上に行きたい訳じゃないし。

200階に上がっても、負けるようだったら意味が無い。しっかり鍛えて挑戦しなきゃな。

……つかさ。俺、単純な数値で強さを見た場合、この1年の修行でむしろ弱体化してるんだよね。

瞑想の果てに念能力を手に入れるとは思わなかったわ…。

しかも操作系能力。制約と誓約の為だけに存在する能力。メモリの

無駄遣いってレベルじゃねえ。

やけになって制約と誓約、全部決めちまったぜ。

そのおかげで、戦闘用の発は未完成な上に制約と誓約のせいで使えず、弱体化の能力だけが効果を發揮してる。

まあ、制約と誓約が厳しければ厳しいほど能力は強くなるんだけどさ。

天空闘技場が終わってからすれば良かったZ E。まったく俺ったらおっちょこちょいなんだから

笑えてくるよ。

H A H A H A

……笑えよ。

後悔なんて、あるわけない。

無いつたら無い。

さて、気を取り直して天空闘技場だ。

今、リングに立っているが、相手は見るからにマツチヨ。身長は…
…あっちの方が高いかな？

まあ、相手がどんなだろうが、力任せではなく、丁寧に戦っていくつもりだ。なるべく長く戦いたいから纏はするけど。

念能力者だった場合は……ガチでやるか。いい経験になるだろう。

そんな風に考え事をしていると、マツチヨから話しかけられた。

「おい……そんなに睨んでも負けてはやれんぞ」

……………素だよ。ボケ。

絶対KO勝ちしてやる！

ようやく審判の説明も終わった。

ようは、武器無し、それ以外は何でもOK、TKOもあるよ。最初だからガンバ。八百長ダメ絶対ってことだな。

「それでは試合開始！」
おっと始まったな。

突っ込んで来て、パンチを繰り出すマツチヨ。

それを手で捌き、避けられるものは避ける。蹴りを後ろに跳んでかわす。無理なものは防ぐ。

…案外いけるな。ちゃんと見えるし、避けられる。

「おいおい、避けるてるだけじゃ勝てないぜ」

ム力！

だったらやってやろうじゃねえか！

棒立ちになった俺を右で殴りかかってくるマツチヨ。

それを右腕で下側から円を描くようにして、右に逸らす。

同時に相手の左側に踏み込む。

そして体勢が崩れたマツチヨの腹に右膝をぶち込む！

崩れ落ちたまま動かないマツチヨ。

「試合終了！」

審判は即座に腕を交差させ、試合を終わらせた。

やっぱり思ったより動ける。この調子なら早く上に行けるかもしれないな。

「君は50階に行きなさい」

さて、今日はもう1試合あるのかな？

終わったら念の修行だな。

おまけ

く山籠もり中の話く

俺は一本の刀だ。

……やっぱり発の修行用に刀が欲しいな。

天空闘技場に行って金稼いだら、速効買おう。

しかし、刀ねえ……。

刀は所詮道具だからなあ。

元ネタ的に考えても道具だし。使い手がいてなんぼだよな。

本来の順序は逆だけど、刀を使う才能の無さも、刀が刀を使う不自然さを思えば納得できるし。

あ、ティンときた。

……いやいや！ティンときちゃマズい！！

…あれ？できちゃった？もう能力発動してる？

うそーん……。

………どうしょ。つかこれ何系の能力？

自身の才能の無さを強化するから強化系……………だったらいいな。

普通に自身を制限、操作しているから操作系だよなあ。

何ちゅうメモリの無駄遣い。

……はあ。やっちゃまったもんは仕方ないか。

ついでだから、開発中のアレの制約と誓約も決めちまおう。まあ、今作った能力が制約みたいなもんだけど。

……これを足して、条件を厳しくしてと。こっちも弄れば。ああ、契約はフェアでいけばもっと強くなるかな。命も懸ければいいな。

……よし！できた！！

ちよつと厳しすぎるかな？いや、これくらいじゃないと護衛軍は無理だろ。大丈夫、イける、大丈夫さ。

さて、修行の続きをしようっと。

↳ リズ・アナスタシア（強化系）↳

《血刀の呪い【ヤスリ】》

効果

？ 武器を使用すると身体能力、五感及びバランス感覚、念能力が下方修正される

・ 武器ではない物でも、武器として使用する場合は同様である（包丁やハサミや車など）

・ 武器であつても武器として使用しなければ、この限りではない（ナイフで調理など）

？ 『主』がいない場合、顕在オーラを本来の半分に制限する

？ 『主』がいない場合、この能力以外の具体的な能力の使用を禁止する

？『刀語』の内容をいつでも、全て思い出せるようになる

制約と誓約

？自分自身にしか効果がない

？ON・OFFの切り替えはできない

？除念した、された場合は命を落とす

備考

刀を振り上げればすっぽ抜け、振り下げれば自分の足を切る。銃を撃てば腕の関節全てを挫き、狙った場所に当たらない。武器を手にとって走れば何も無い所でずっとこける。

絶をしている時に武器を持ち戦闘に臨むと、能力が強制発動し、絶は解ける。他人の念能力により、強制絶にされると能力は発動しない。

本人も気づいていないが、下記の念能力とこの能力はセットであり、盗まれる場合もセットで盗まれる。

《?????【?????】》

効果

?????

?????

?????

制約と誓約

?『主』がない場合、使用ができない。

?『主』と契約するに当たって、5つの条件をクリアしなければならない

a .????

b .????

c .????

d .????

e
.
?
?
?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0845x/>

転生×ハンター

2011年10月10日14時50分発行